

バラエティー・ビッグバン「私を笑え。」キャンペーン展開中!!

世界中に救いを求めている人がいる…  
私たちに何ができるだろうか。

岡山放送開局30周年記念特別番組  
**微笑みを返したい!**

**ヒマラヤの麓から**  
～医療ボランティアAMDAの闘い～

〈2月28日(日) 午後4時5分～午後5時20分放送〉

岡山放送は、近年関心の高まりを見せるボランティアをテーマに、開局30周年記念特別番組「微笑みを返したい!ヒマラヤの麓から～医療ボランティアAMDAの闘い～」を2月28日(日)午後4時5分からフジテレビ系列全国28



微笑み、微笑み、微笑み……ブトワールの子供たちと神田うの(中央)



## 局ネットで放送する。

インドの北、ヒマラヤ山脈中央部に位置するネパールは、北部に世界最高峰のエベレスト(8848m)を擁し、山麓や南部の丘陵地帯を生活活動の中心とする発展途上国である。標高1300mの首都カトマンズから西南約200キロの小市ブトワールに昨年11月AMD Aネパール子供病院が開設された。貧しい村に突然闇の中に光が射したかのごとく現れ、近代的かつ芸術的な建物だが、不思議と周囲の風景にとけこむような佇まいを見せている。

AMD Aネパール子供病院の医療スタッフは日本人・ネパール人混成で、医師3名と看護婦・検査技師あわせて約10名で構成されている。この病院ができるまで、小児専門病院はネパール国内に一つしかなく、しかも5才未満の乳幼児死亡率は日本の20倍とあって、ブトワールの人々は、どんなに病院の開設を待ち望んでいたことだろう。

岡山県に本部を置く医療ボランティアAMD A (Association of Medical Doctors of Asia—アジア医師連絡協議会)は、世界中で救いを求めている人々のために、「何かをしたい」という人間として普通の想いが出発点だという。1984年に生まれ、現在日本を含む21カ国に支部を置き、国内1500名、海外300名の医療関係者が参加する組織にまで成長し、世界中で緊急医療活動、地域保険医療等に取り組んでいる。

番組では、AMD Aネパール子供病院の立ち上げに関わってきたスタッフの様々な活動と想いを追う。病院立ち上げまでの様々な困難、そして何よりも「ネパールの子供たちのために頑

張ろう」という目的は同じでも、個人として抱えこまざるを得ない心の葛藤や揺れ動く気持ちが生々しく記録されている。

## 「ボランティアとは何なのか。」

彼らの悩み、迷い、苦しみ、そしてそこから導き出された確信。一人一人の人間としての姿そのものが、その答えの一つとはいえないだろうか。

また、昨年秋、ハリケーンによって大きな被害を受けたホンジュラスにおけるAMD Aの緊急医療救援活動に携わるスタッフの活動も紹介する。緊急医療を必要とする被災地の惨状、AMD A医療スタッフのあせり、そして限界…。

AMD Aネパール子供病院が完成間近となった昨年10月、ブトワールの町に一人の女性タレントが訪れた。

「人のために自分が出来ること」神田うのさんは、ボランティアの階段を登り始めようとしていた。3月に開催された長野パラリンピックの開会式で身障者と触れ合った事がきっかけとなり、今回のこの番組に、視聴者と等身大のリポーターとして出演を引き受けた。

神田うのさんにとって、ドキュメンタリー番組は初出演である。当初、彼女の考えるボランティア像とは「お金でしょう」この一言に象徴されていた。彼女はブトワールの子供たちの実際の姿をまず自分の目で確かめようと、ネパールに旅立った。

飛行機の大幅な遅れ、荷物の紛失、カトマンズから9時間半の危険な山越え、様々なトラブルの末たどりついたブトワールで待っていたの



は、彼女の想像を超えたものだった。あまりにも不衛生な政府の病院、そして悲惨な患者、極貧の村、カルチャーショックの連続だった。貧しくて必死に生きようとする村人たち、しかし彼らのほしいものは「お金ではなく仕事」だった。彼女はブトワールでシティという7才の少女に出会う。シティは父と一緒に亡き母の代わりとして3才の妹の面倒を見ていた。妹は結核の進行と寄生虫による栄養失調で衰弱しており歩くことすらできない。父と子3人の生活は極貧。家畜小屋として使われていた建物で生活していた。歩けない3才の妹を見て、神田さんは言葉を失い涙を流した。「私に出来ることなら、何でもしてあげたい。」そんな気持ちが自然に芽生えた。

町ではストリートチルドレンと触れ合った。山岳地帯に住む家から追い出された子供たちが町に集まって徒党を組み、鉄くずひろいで生活をしているのだが、どんなに貧しくても盗みはしない。母親のあたたかさを知らない少年たちは、神田さんと握り合った手を離そうとはしなかった。

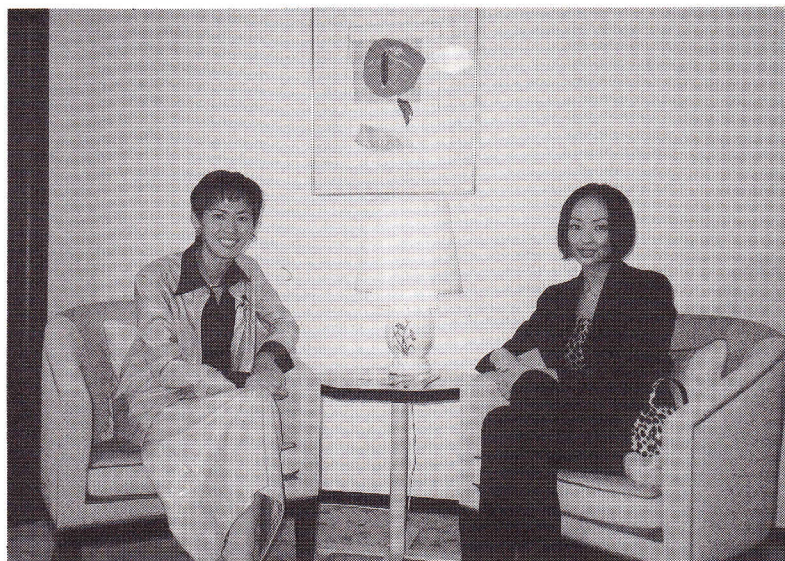
様々な子供たちと出会ったが、どの子も笑顔で瞳が輝いていた。一緒に歌を歌い、仕事を手伝い、一緒に遊んだ。取材の中でいつしか彼女は童心に帰り、とても素直な気持ちになっていく。

帰国前日、空港で行方不明になっていた神田さんの荷物がや

っとホテルに届けられたが、その中には日本から彼女が持ってきた気持ちが一杯詰まっていた。夜半、それを村長に託すことが出来た。

「あなたたちの笑顔が私の気持ちを変えました！また来ます。」

「自分に出来るボランティアは走ることを通じて世界中の人々に勇気を」と、昨年、「Heart of Gold」を結成した有森裕子さん。神田さんは、これまでまったく接点のなかった有森さんを訪ねた。「何をすればいいの？」彼女の真剣な眼差しに、「うのちゃんの明るい微笑みを子供たちに返してあげれば…。それがあなたのボランティアの第一歩じゃないの。」何かをしてあげたいと想う2人がいた。ボランティアの形は様々で、自分にできること、そしてそれを真剣に考えてみることから何かが始まる。有森さんのアドバイスを胸に神田さんは再びネパールに飛んだ。



ボランティアとは……語り合う有森裕子（左）と神田うの（右）



11月、前回の取材とは一転しネパールの民族衣装で子供たちと接する神田さん、「こっちのお母さんみたいな格好をすれば子供たちも近づきやすいでしょ。」トランクと段ボール一杯に詰め込んできた古着を、一人一人子供たちに着せてあげる。彼女の心を痛めていたシティの妹はまだ病院に行っていなかった。「この子を病院に連れて行ってあげたい。」やがて村を去らなくてはならない彼女に出来たことは、少女のことを祈り、父親や村長に託すことだけだった。彼女は出発間際まで、ストリートキッズに会いたいと町中を必死に捜した。そして、「君たちが大きくなったらきっと忘れられない思い出になるから」とボラロイドで一緒にとった写真を手渡した。

そしてもう一人——、ボランティア活動を行っているAMDAのスタッフを、そしてボランティアそのものを応援したいとこの番組のナレーションを引き受けてくれたのは、吉永小百合さん。ここ数年、被爆者支援活動として詩の朗読全国行脚を続けている吉永さんは、「語りを通して私の願いを視聴者の皆さんに訴えたい。」と語る。

女優・吉永小百合さん、タレント・神田うのさん、マラソンランナー・有森裕子さん、住む世界の違う3人の女性に「何かをしたい」とい



ネパールの民族衣装を身にまとい、プトワールの子供たちと遊ぶ神田うの

う純粋な想いが、同じ想いがあった。その想いが、この番組で溶け合う。「微笑みを返したい！ヒマラヤの麓から」どうぞお楽しみに！



タイトル

岡山放送開局30周年記念特別番組  
微笑みを返したい! ヒマラヤの麓から  
～医療ボランティアAMDAの闘い～

 ディレクター

後藤 和馬 (OHK)  
竹内 康人 (共同テレビ)

 放送形式

75分のヒューマンドキュメント

 制作協力

OHK エンタープライズ  
共同テレビジョン

 放送日時

平成11年2月28日 (日)  
午後4時5分～5時20分

 制作著作

OHK 岡山放送

 ナレーター

吉永 小百合

(広報担当 岡山放送・安原)

 リポーター

神田 うの

 特別出演

有森 裕子

 構成

岩井田 洋光

 音楽

佐藤 三樹夫

 統括プロデューサー

雪本 敏治 (OHK)

 プロデューサー

宇野 忠正 (OHK)  
中嶋 常人 (共同テレビ)



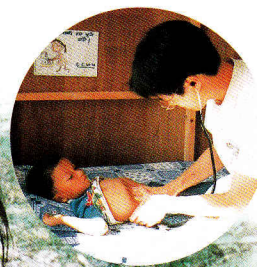
OHK 開局30周年記念特別番組



# 微笑みを返したい!!

## ヒマラヤの麓から ~医療ボランティア AMDAの闘い~

世界中の、救いを求めている人たちに  
“何かをしてあげたい”と心の底から思うこと・・・。  
そこから人間として大切な、何かが生まれてくる。



放送 平成**11**年**2**月**28**日(日)

午後**4**時**5**分~**5**時**20**分

フジテレビ系列全国28局ネット

ナレーター 吉永小百合

リポーター 神田うの

特別出演 有森裕子

岡山放送株式会社

〒700-8635岡山市学南町3丁目2番1号

TEL(086)252-3211

<http://www.ohknyoki-tv.com>



Save The Soul

魂を救える唄があるなら

Save The Soul

届けたい あなたの震える心に

傷つき倒れた 人や草や

野に咲く花の 幾千の命の唄を

Save The Soul

閉ざされたこの夜の扉たたいて

Save The Soul

伝えたい 大丈夫 心配無いさと

泣いてもいいよと 一人じゃないさと

見上げた空には 同じ星が瞬く

ねえ人はなぜ切なくて 一人じゃ生きられないの

ねえ人はなぜ愛しくて 一人じゃ愛を語れないの

ねえ人はなぜ一度きり この星に生まれてきたの

あなたを見ていると 涙が止らない

Save The Soul

魂を救える唄があるなら

Save The Soul

届けたい あなたの震える心に

by 佐藤三樹夫

ネット局 岡山放送 フジテレビ 関西テレビ 東海テレビ テレビ西日本 北海道文化放送 仙台放送 テレビ静岡  
テレビ新広島 岩手めんこいテレビ 秋田テレビ さくらんぼテレビ 福島テレビ 新潟総合テレビ 長野放送  
富山テレビ 石川テレビ 福井テレビ 山陰中央テレビ 愛媛放送 高知さんさんテレビ サガテレビ テレビ長崎  
テレビ熊本 テレビ大分 テレビ宮崎 鹿児島テレビ 沖縄テレビ (全国28局ネット)

## 岡山放送株式会社

本社/〒700-8635 岡山市学南町3丁目2番1号

TEL. (086) 252-3211



OHK開局30周年記念特別番組

# 微笑みを返したい ヒマラヤの麓から ~医療ボランティア AMDAの闘い~

1999年2月28日(日) 16:05~17:20

## 企画意図

1997年、初めてノーベル平和賞がNGOに贈られた。そして2001年は国際ボランティア年に位置づけられている。時代は強さとともに優さを要求している。われわれの生き方そのものが問われる時代になった。

救いを求める人たちがいる。  
私たちに何ができるだろうか。  
何もできないかも知れない。でも、何かをしなければ…、したい…。

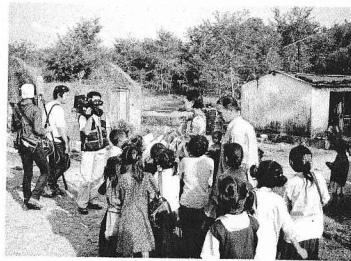
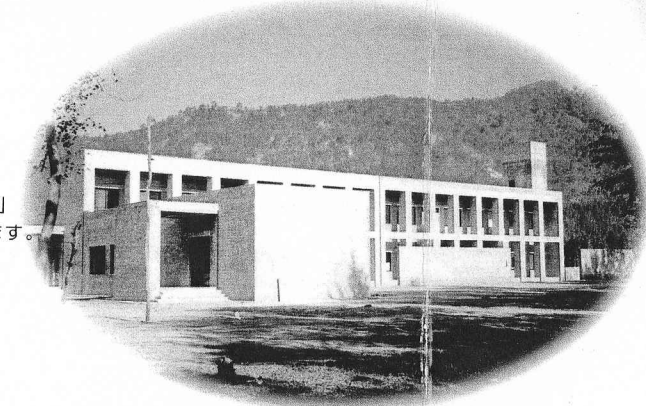
岡山県に本部を置くAMDAの活動の基本はまさにその「何かをしたい。」という人間として放っておけない、心の奥からの衝動が第一歩だと言います。—この番組は同じように「何かをしたい」という衝動を心に持ち、「何か」をはじめた人々の姿を通して、最初の1歩の意味を探っていくというものです。

それぞれの人たちが、心の中で燃える火をどのように形にし、それを形にしたことで感じた何か  
—達成感、挫折感、限界そして感動—を描いていきます。  
そしてそこから人間として大切な何かを見つけだし、あるいは問いかけて、それぞれが「自分に何ができるか」を考えていく、20世紀末の記録です。



ナレーター 吉永 小百合

リポーター 神田 うの  
特別出演 有森 裕子



## みどころ

女優・吉永小百合、タレント・神田うの、マラソンランナー・有森裕子—  
「人間として何かをしたい」という同じ想いのもと、一見、価値観や世界観が異なるように見える3人がある意味で共演し、それぞれの立場で語りかける—  
ナレーションの吉永さんは「語りを通してわたしの願いを訴えたい」、リポーターの神田さんは「ボランティア未経験の視聴者と等身大で何かを感じたい」、オリンピックメダリスト・有森さんは「自分にできることで人々に勇気をあげたい」と。

## 番組内容

### 神田うの・ボランティアの旅・心の旅

1998年3月、長野パラリンピック開会式で身障者と一緒に踊り触れあったことが、心を揺さぶっているというタレント・神田うの。その時の想いが、ボランティアを考え体験していく第一歩となり、この番組のリポーターとして2度のネパール取材を引き受けた。1回目のネパール、フトワールの取材ではカルチャーショックの連続だったという彼女—  
明日の命が知れない3才の女の子、親に捨てられたストリートチルドレン、貧困の中で懸命に生きている子どもたちに出会い、言葉もなかった涙した。そんなありのままの神田うのをカメラは追う。

最初の取材の後、  
ボランティアの先輩・有森に会って、彼女は聞いた。  
「今、私は何をすればいいの?」  
真剣な彼女に有森は答えた。  
「その明るい微笑みを子どもたちに返してあげれば!  
それがあなたのボランティアの第一歩じゃないの…」  
その有森の言葉を胸に、彼女は再びネパールに旅立った。



### 有森裕子は走り続ける

「自分にできるボランティア」は走ること—オリンピックメダリスト・有森裕子は、「走ることを通じて世界の人々に生きる勇気を」を合い言葉に、昨年10月に「スポーツNGO「Heart of Gold」」を組織し、その代表となった。

「対人地雷の犠牲者に愛の義足を」をテーマに1996年に始まった「アンコールワット国際ハーフマラソン」には、第1回大会から参加して昨秋で3回目。

「今まで同じ大会に何度も参加することはなかったけどこの大会は違う。変わっていくカンボジアを見るのが楽しみで、続けることが大切なんです。」  
地雷で負傷したアジアの子どもたちのために走り続けながら、この大会で自身も海外レース復帰の第一歩を踏み出した。



### AMDAの挑戦

1998年11月、ネパール南部のフトワールに「AMDAネパール子ども病院」がオープンした。

このネパール子ども病院にAMDAの活動として関わってきた人々—

子ども病院の立ち上げに最初から携わってきた看護婦の富田万里子さん、日本での内科医の職を捨て、子ども病院の日本人医師として病院の中枢となって働いている高橋哲也さん、先進国と発展途上国の乳児の死亡率の較差に疑問を持ち続けていたことが引き金になって活動に参加した助産婦の早瀬麻子さん、

番組では、彼らの活動をはじめ、この秋中南米を襲ったハリケーンの被災地・ホンジュラスでの緊急医療救援活動の模様、派遣された医師や調整員、看護婦といったAMDAのスタッフの活動を通して、ボランティア活動の感動や難しさを伝えるとともに、様々な問題点を共に考え、「今、何ができるのか」というボランティアの原点に迫る。



## AMDA

アムダ  
—Association of Medical Doctors of Asia—  
(アジア医師連絡協議会)

1984年8月に岡山で設立されたNGO(非政府組織)。現在日本を含む21か国に支部を置いて、国内1,500名、海外300名の医療関係者が参加し、緊急医療活動、地域医療、JICA、医療保険プロジェクトなどの活動を続けている。一方で、「ネパール子ども病院」などの長期プロジェクトへの取り組みも行った。国内では在日外国人が抱える医療上の悩みを解決するための「国際医療情報センター」も開設している。1995年6月には、国連NGOカテゴリーIIに認定された。